

# 道博協 ニュース

## 第53号

発行所 北海道博物館協会  
札幌市厚別区厚別町小野幌  
北海道開拓記念館内  
電話 011-898-0456  
FAX 011-898-2657

### 第35回道博協厚岸大会

#### 明年七月五・六日に開催決定

##### ― 第二回役員会報告 ―

平成七年度第二回の役員会が、去る十一月三十日、十二月一日の両日、富良野市文化会館で会長以下、十五名の集合のもとに第二回役員会が開催されました。

初日は、午後一時半から、以下にあげる内容について、午後五時まで熱心な討論が続けられました。冒頭の会長挨拶のなかで、城戸崎会長は、マサチュセッツ州・北海道姉妹交流協会のデイビッド・C・ナツプ会長から提案のあったマサチュセッツ州内博物館との交流(『道博協ニュース52号』に紹介)にふれられ、会員館で希望館があれば、道博協が積極的に仲介するをの話がありました。

会議の内容について簡単に報告しすと、道博協基本問題検討委員会報告では、過去三回にわたって行われた検討会の内容、問題点等が、佐藤一

夫部会長から詳細に報告されました。

第三十五回道博協大会は、平成八年七月五日(木)、六日(金)道東の厚岸町で開催されますが、去る十一月二十二、二十三日に事務局との現地打合せの結果について、大会テーマや会場、現地視察などについて、厚岸町教育委員会の要望等もまじえて、現地の大

会の取り組み状況が報告され、より良い大会にするため活発な意見が出されました。

平成九年度の第三十六回道博協大会の開催予定地について



ては、ここ数年、松前、厚岸と道南、道東で開催されているため、事務局としては、次大会は石狩、空知、後志、胆振、日高、上川、留萌など北海道央部を考えておりますが、また煮詰まり切らない状態にあります。本役員会では、各地の開催の可能性のある地域の情報が交換され三月の第三回役員会まで候補地が内定できるよう、万全の体制をとることが確認されました。

役員会のあとの懇談会では富良野市教育委員会の澤井政義教育長さんからは、富良野市の観光振興と合せた地域起し、人づくりについて豊富な実例を交えての話がうかがい有益でした。

#### 社会教育関係

#### 団体連絡会議の開催

施設見学では、前日に富良野市郷土館を見学し、翌日は八時四十五分に宿舍のハイランドふらのを出発し、ふらのワイン工場、ふらのチーズ工房、渥美頭二・丘の写真館、ニングルハウス、北時計(小野洲一原画展)など、近年、富良野市で開設された展示施設などを見学し散会しました。

種々お世話になった富良野市教育委員会の各位に厚く感謝を申し上げます。

(事務局長 野村 崇)

(財)北海道生涯学習協会の主催する平成七年度の社会教育関係団体連絡会議が十二月十五日、札幌市のかでる2・7で開かれ、当協会より城戸崎会長と野村事務局長が出席しました。当日は、加盟の二四団体に参加しました。行政側からは、北海道教育庁の片平美智子社会教育課、同企画管理部企画室の吉田靖参事から道教委の生涯学習振興に関する施策や今後の推進に関する施策についての説明があり、

続いて、本年度、全道的に展開された第七回全国生涯学習フェスティバルが盛会裡に終了したことが、吉田事務局長から報告されました。

道教委に対する要望としては、当協会、城戸崎会長ほか、道教委補助金の増額等が要請されました。

平成七年度

## 北海道青少年科学館

## 職員研修会報告

札幌市青少年科学館展示係長 湯 浅 正 和

平成七年度の北海道青少年科学館職員研修会は、十月五日・六日の両日、札幌市青少年科学館を会場に十四館、三〇名が参加し開催された。

本研修会は、北海道青少年科学館連絡協議会に加盟する十三市町の理工系科学館職員を対象に毎年一回開催されているが、今回は加盟館に加え、来年度加盟を予定している滝川市こども科学館、上砂川町無重力科学館や北海道電力(株)



自然史博物館が開催されていた経緯など地域に根ざした博物館活動についても示唆に富んだ話を伺った。最後は、タキカワカイギウウをテーマにした愛唱歌?も披露していただくなど時間をオーバーしたの講演に、参加者一同の大きな拍手で締めくくられた。

午後から行われた情報交換では、教室・講座などの教育普及活動について意見が交わされた。教育普及活動の中心をなす展示物の充実が財政上思うにまかせない現状にあって、各館とも実験や工作、天



習に最適な実験セットである。続いて場所をプラネタリウムに移し、各種投影機器の設置状況や機能について説明の後、これらを駆使したコンピュータによるオート番組と星空解説を楽しんでいただき一日目を終えた。

育大学札幌校教授の木村方一氏から「北海道産脊椎動物化石と博物館活動」と題して講演をいただいた。木村先生は、道内産の大型哺乳動物化石研究の第一人者であり、現在は北海道教育大学附属教育実践研究指導センター長も兼任され、哺乳動物化石に関するマ

ルチメディア教材の開発にも力を注がれている。

講演内容は、道内の多くの化石発掘の端緒となった忠類ナウマンゾウの発掘をはじめ、同氏が現在まで関わってきた多くの発掘調査の体験を豊富なスライドを使用してお話いただいた。発掘調査における地域住民の協力の重要性と、化石発掘を契機にその地域に

定着や学校週5日制の拡充に伴い、益々多様なプログラムが求められているところであり、今後の題材開発の参考にと内容・成果について活発な意見交換が行われた。なかでも、プラネタリウムを利用した胎教コンサート(厚岸町海事記念館)、市内の小五・六年生全員を対象にした一日科学教室(苫小牧市科学センタ

ー)、十数組の親子が数か月かけて共同製作するソーラーカーづくり(北網圏北見文化センター)が注目を集めていた。さらにこのあと、当館の職員を指導員に再生紙づくりとガラスエッチングの実習を行った。再生紙づくりでは、当館が学校向け貸出実験セットとして自作した「掃除機を利用した水切りボックス」が大変好評を得た。この特製水切りボックスはプラスチックの収納容器に吸口と掃除機取付口をつけたもので水切りに大変威力を発揮し、十分程度で新聞紙からハガキ作りが楽しめるもので、多人数の体験学

力を注がれている。

講演内容は、道内の多くの化石発掘の端緒となった忠類ナウマンゾウの発掘をはじめ、同氏が現在まで関わってきた多くの発掘調査の体験を豊富なスライドを使用してお話いただいた。発掘調査における地域住民の協力の重要性と、化石発掘を契機にその地域に

定着や学校週5日制の拡充に伴い、益々多様なプログラムが求められているところであり、今後の題材開発の参考にと内容・成果について活発な意見交換が行われた。なかでも、プラネタリウムを利用した胎教コンサート(厚岸町海事記念館)、市内の小五・六年生全員を対象にした一日科学教室(苫小牧市科学センタ

ー)、十数組の親子が数か月かけて共同製作するソーラーカーづくり(北網圏北見文化センター)が注目を集めていた。さらにこのあと、当館の職員を指導員に再生紙づくりとガラスエッチングの実習を行った。再生紙づくりでは、当館が学校向け貸出実験セットとして自作した「掃除機を利用した水切りボックス」が大変好評を得た。この特製水切りボックスはプラスチックの収納容器に吸口と掃除機取付口をつけたもので水切りに大変威力を発揮し、十分程度で新聞紙からハガキ作りが楽しめるもので、多人数の体験学

習に最適な実験セットである。続いて場所をプラネタリウムに移し、各種投影機器の設置状況や機能について説明の後、これらを駆使したコンピュータによるオート番組と星空解説を楽しんでいただき一日目を終えた。

二日目は、平成五年にオープンした大型複合商業施設「サッポロファクトリー」を見学した。札幌ビル開発の澁谷朋代氏から本施設誕生の経緯と施設全般の概括的な説明を受けた後、アイマックスシアター(大型映像ホール)や天体工場など人気の施設を見せたいいただいた。なかでも、特別展「エジソン倉庫」では、エジソンの偉業を紹介する発明品の数々が展示されており、実物の感動と科学のおもしろさが十分体験できた。技術発達史に関する実物資料を殆ど持ち合わせていない各館にとっては羨ましい限りであった。ややハードなスケジュールであったが無事二日間の日程を終え、翌年の小樽での再会を約束して散会した。

## 博物館協力と巡回展

道北地区博物館等連絡協議会 事務局局長 青柳 信克

博物館・資料館（以下博物館）は、それぞれの地域に根ざして活動し、その地域の特徴ある資料を所蔵している。

しかし、いずれの博物館も、人、金などの不足を職員の経験と知恵で補いつつ、活動しているのが実情であろう。博物館が相互に協力して活動することも、不足補完の一手段となり得る、と考えている。

いくつかの博物館が共通のテーマ、目的によって調査研究及び普及活動を行うことで、人、金などの不足で断念していた事業が可能になることもあるだろう。しかし、管見ながら、北海道の博物館活動には、そのような事例を見聞したことがない。そこには、行政単位を越えた予算執行の難しき、各種博物館の活動対象及び目的の相違など、いくつかの要因が考えられる。一方、行政が肥大し、地方行革が行なわれつつある今日、市町村

教育委員会が運営主体である博物館もその対象外となることはないだろう。

容易に実現しないことは承知しているが、博物館が置かれている現状をみると、博物館相互の協力、連携関係の早急に確立し、博物館活動の充実、相互補完がはかられるべきである。それに加えて、博物館の地域ブロックはその有機的な集合体として、博物館相互の協力関係確立の紐帯となるよう自らを活性化することが求められている。道北地区博物館等連絡協議会も決して例外ではない。当協議会規約第二条には、会員相互の連絡協調、博物館活動の充実発展が謳われている。

当協議会活動の主体は、道北管内の博物館に支えられて開催してきた巡回展である。

巡回展開催の発端、経過などは、「道博協ニュース」第五十二号に譲る。巡回展の展示構

成の基本は、博物館が設置されている地域に共通するテーマを選択することである。しかし、これが難しい。当協議会としては、ここに博物館の相互協力の糸口を見出したい、と考えている。しかし、巡回展も回を重ねるうちに、事務局の怠慢も手伝って、各博物館が所蔵する一纏まりのコレクションを巡回する、という安易な方法をとることが多くなった。巡回展会場は教育委員会のロビー、公民館の一室など、巡回展が地域の生涯学習に少しでも寄与できるならば、会場がどのような所であっても厭わない。また、巡回展が地域の人びとのなかに定

着し、更に各博物館の活動への期待、要望が喚起できるならば、巡回展は成功である。巡回展は、規模の拡大そして一次資料の増量が、求められている。各博物館及び当協議会は、展示規模を拡大し、道北管内の人びとに可能な限り多くの一次資料を見ていただき、学習を深められるように展示構成をすることにやぶさではない。これには資料の輸送手段が隘路となっている。これまでの、ライトバン一台に積載できる量が目安であった。それとともに、振動及び過密積載による資料の損傷を避けるために、パネル展の様に相を呈さざるを得なかった。

過去八回（「道博協ニュース」第五十二号では第九回としたが、誤りである。この紙上をお借りして訂正させていただく。）の巡回展開催によって、資料の損傷、輸送手段などの問題点、その他いくつかの反省点が出てきた。当協議会は総会、理事会などにおける話し合いを通じて、問題を解決するとともに、これまでの反省

を踏まえたより良い巡回展を構成し、管内の人びとの生涯学習に寄与していきたい。

巡回展は、道北管内の博物館の相互協力、連携関係確立の一助となり得る、と確信している。巡回展を構成するための共同作業を通して、協力関係が確立することも可能である。このためには、これまで理事会で行ってきた展示構成を、いくつかの博物館に願うするなど、その構成方法に一考を要する。また、巡回展が契機となり、より質の高い学習情報の提供あるいは地域の人びとの期待、要望を先取りして、各博物館が共通のテーマで共同活動を行うことにより、緊密な協力関係が確立できることを期待している。

来年度、巡回展は十回目を迎える。第十回巡回展は、玩具で戦後五十年を辿るものにするのが、去る九月の理事会で決まった。展示シナリオに基づき、道北管内の博物館が所属する戦後の玩具を持ち寄り、各館が協力をして展示を組み立てる構想である。



巡回展開催の発端、経過などは、「道博協ニュース」第五十二号に譲る。巡回展の展示構成の基本は、博物館が設置されている地域に共通するテーマを選択することである。しかし、これが難しい。当協議会としては、ここに博物館の相互協力の糸口を見出したい、と考えている。しかし、巡回展も回を重ねるうちに、事務局の怠慢も手伝って、各博物館が所蔵する一纏まりのコレクションを巡回する、という安易な方法をとることが多くなった。巡回展会場は教育委員会のロビー、公民館の一室など、巡回展が地域の生涯学習に少しでも寄与できるならば、会場がどのような所であっても厭わない。また、巡回展が地域の人びとのなかに定着し、更に各博物館の活動への期待、要望が喚起できるならば、巡回展は成功である。巡回展は、規模の拡大そして一次資料の増量が、求められている。各博物館及び当協議会は、展示規模を拡大し、道北管内の人びとに可能な限り多くの一次資料を見ていただき、学習を深められるように展示構成をすることにやぶさではない。これには資料の輸送手段が隘路となっている。これまでの、ライトバン一台に積載できる量が目安であった。それとともに、振動及び過密積載による資料の損傷を避けるために、パネル展の様に相を呈さざるを得なかった。過去八回（「道博協ニュース」第五十二号では第九回としたが、誤りである。この紙上をお借りして訂正させていただく。）の巡回展開催によって、資料の損傷、輸送手段などの問題点、その他いくつかの反省点が出てきた。当協議会は総会、理事会などにおける話し合いを通じて、問題を解決するとともに、これまでの反省を踏まえたより良い巡回展を構成し、管内の人びとの生涯学習に寄与していきたい。巡回展は、道北管内の博物館の相互協力、連携関係確立の一助となり得る、と確信している。巡回展を構成するための共同作業を通して、協力関係が確立することも可能である。このためには、これまで理事会で行ってきた展示構成を、いくつかの博物館に願うするなど、その構成方法に一考を要する。また、巡回展が契機となり、より質の高い学習情報の提供あるいは地域の人びとの期待、要望を先取りして、各博物館が共通のテーマで共同活動を行うことにより、緊密な協力関係が確立できることを期待している。来年度、巡回展は十回目を迎える。第十回巡回展は、玩具で戦後五十年を辿るものにするのが、去る九月の理事会で決まった。展示シナリオに基づき、道北管内の博物館が所属する戦後の玩具を持ち寄り、各館が協力をして展示を組み立てる構想である。

## 開館五周年記念移動展

## 「ノーザン・ピープルズ

## 〜北方地域にくらす諸民族〜」について

北海道立北方民族博物館 学芸員 齋藤 玲子

北方民族博物館は、平成八年二月に開館五周年を迎えます。これを記念して十月四日から十日までの一週間、札幌市にある道民活動センタービル（かである2・7）の一階展示ホールで、初めての移動展を開催しました。展示の概要や、この事業をとおして考えたことなどをご報告したいと思います。

一般に移動展というと、都市部にある大きな博物館から地方の市町村へ資料を持って行って公開する形式が多いと



展示の内容は、それぞれ異なる地域に暮らしてきたサミ、ナーナイ、ウイルト、ニアフ、イヌ、コリヤーク、イヌイト、アリユート、北西海岸インディアンの歴史と文化について、民族ごとに紹介しました。寒冷で厳しい環境のなかで、さまざまな知識を集積して技術



を開発し、自然と調和して生きてきた人びとの多様な文化を知ることは、我々にとって多くの示唆を与えてくれるものです。しかし、まだまだ日本では民族学はなじみがうすく、博物館の名前だけを聞くのと堅い印象をもたれがちです。一一〇点の資料構成には、衣類を中心に実際に使っていた人びとを思い浮かべやすいように心掛け、また手の込んだ精緻なデザインが施された儀礼具や容器類、洗練された形態をもつカヤックなど、目をひく美しいものを多く展示しました。まずは「物」の持つ魅力で、北方民族の文化に関心をもちたいから第一歩と考えたからです。これらの資料はふだん収蔵庫に保管

されているもので、資料の活用の中でも意味あることでしよう。会場では、出版物を閲覧していただくコーナーも設けました。また、NHK北見放送局制作の「ロマン北方文化―北海道立北方民族博物館―」という十五分のハイ・ビジョン番組を上映させていただくことができ、北方民族とオホーツク文化の概要をわかりやすく紹介するとともに、常設展示の雰囲気もお伝えできたと思います。

特に展示ケースの貸与をはじめ、移動展のノウハウについては北海道開拓記念館から多大なご指導・ご支援をいただきました。

博物館の利用者を増やすために積極的にPRすることは必要ですが、公立の場合、広報の予算はあまり認められません。移動展も輸送費や出張旅費をはじめ、かなりの経費がかかりますが、展示ケースや照明などを含め良い会場の確保と、展示設営と撤収に余裕のあるスケジュールを立てることができれば、少ない労力でもかなりの効果を上げることもできるものと思います。

地方中核都市にある博物館、美術館ならば特別展示を持つているところが多いですし、市町村立の生涯学習センターの設置も盛んになってきています。お互いに移動展の会場として協力しあうというのことも考えられないことではないでしょう。

今回の経験をつうじ、移動展の在り方についていろいろな思いをめぐらせています。

## 北海道開拓記念館

## 「博物館移動展」について

北海道開拓記念館学芸員 畑山 義弘

北海道開拓記念館では、北海道職員互助会と共同で、平成三年から新たに道民の生活文化の向上に寄与するための公益事業として博物館移動展を実施してきました。

## ①平成三年度「北方民族資料」展

この事業は、職員互助会の費用負担のもとに、展示及び関連行事の実施を開拓記念館が行ってきました。館として、これまで種々の活動を通して道民の要求に応じては、中央地域に偏在する傾向があり、遠隔地在住者に対しても利用の均衡拡大をはかる事が大きな課題となっていました。これらのことから、道民に館の活動成果を還元資料をもとに博物館移動展を実施してきたところとす。

実施方法は、道内十四支庁を単位として、年間二支庁で実施し、展示の会期を五日な

北海道における、春夏秋冬の衣類や、行事道具、親の仕事を手伝うのに使用した道具、教育用具や遊具などを展示しました。

＊会場（各会場六日間）鷹栖町（上川支庁）八月二十六日～三十日、留萌市（留萌支庁）九月七日～十三日

鷹栖会場、講演会二回、講座一回、留萌会場、講演会一回、講習会一回を開催。

③平成五年度「ヒグマ」展  
北海道の自然の中で一番強いヒグマの生態やヒグマと人とのかかわりの歴史を紹介し、自然と人がいかに調和し、共存していくかを考える展示。

＊会場（各会場五日間）浦河町（日高支庁）七月九日～十三日、池田町（十勝支庁）七月十七日～二十一日

＊会場（各会場五日間）網走市（網走支庁）七月五日～九日、稚内市（宗谷支庁）七月十四日～十九日

＊会場（各会場五日間）釧路市（釧路支庁）六月三日～八日、根室市（根室支庁）六月十二日～十六日

＊会場（各会場五日間）網走市（網走支庁）七月五日～九日、稚内市（宗谷支庁）七月十四日～十九日

④平成六年度「北海道化石紀行」展  
化石の宝庫として知られる

⑤平成七年度「山丹交易」展  
十七世紀から十九世紀にかけて中国と北海道を結ぶ壮大な北方文化交流の道によって行なわれた山丹交易の歴史と、この交易によってもたらされた蝦夷錦などの交易品を実物資料を中心に紹介した。

＊会場（各会場五日間）網走市（網走支庁）七月五日～九日、稚内市（宗谷支庁）七月十四日～十九日

＊会場（各会場五日間）網走市（網走支庁）七月五日～九日、稚内市（宗谷支庁）七月十四日～十九日

＊会場（各会場五日間）網走市（網走支庁）七月五日～九日、稚内市（宗谷支庁）七月十四日～十九日

＊会場（各会場五日間）網走市（網走支庁）七月五日～九日、稚内市（宗谷支庁）七月十四日～十九日

＊会場（各会場五日間）網走市（網走支庁）七月五日～九日、稚内市（宗谷支庁）七月十四日～十九日

開催を目指し準備を進めていきます。また、最終年の九年度は、空知支庁、石狩支庁管内での開催に向けて企画中です。

移動博物館展の課題として、資料を道内各地に移動して紹介するこの種の試みを効果あるものにするためには、地域住民がどんな展示会をのぞんでいるかを事前に把握し、地元の要望と主催者の意図とが合致して初めて理想的な展示会が実現します。そのため、学芸員が展示の企画立案に余裕をもって取り組めるような体制作りが急務であり、また、地元の協力が不可欠です。互助会との共催する展示会は、あと二年で終了しようとしています。また、様々な問題を抱えています。とはいえ、かすかに将来への展望が開けてきたこともまた事実です。

最後に、これまで開催してきた現増の教育委員会、博物館、現地学芸員の方々など、多くの関係者に暖かいご支援を賜り、展示会を開催する事が出来ました。厚くお礼を申し上げます。

平成八年度は、「北海道のやきもの」展を函館市（渡島支庁）、室蘭市（胆振支庁）での

札幌市豊平川さけ科学館では、サケや水辺の自然に関係する実習活動を行っている。夏期に開催している「さかなウォッチング」は、実習に適したフィールドと簡単な用具があれば、自然史系博物館の実習として適当なメニューであると思われる。そこで、豊平川さけ科学館における事例、課題等について紹介する。

さかなウォッチングの内容は、淡水魚を主とする水生動物の採集と観察である。実習場所は、札幌市内の河川で、所、採集方法ともに北海道内水面漁業調整規則の制限内で行っている。従って、参加者は各自で魚を採集し、その魚を持ち帰ることができる。

実習の目的は、市内の身近な川にたくさん魚がいることと、安全に川遊びをする方法と楽しさを知ってもらうことである。なぜならば、①札幌は大都市ではあるが、市内の東川には30種以上の魚類が生息している。それらの観察、採集に適した場所も、多くはないが存在する。一方、自然

に関心をもつ方でも、市街地の河川には、ほとんど魚が生息しなくなったと考えている例が多い。②子供が川遊びをするときの技術は、以前は、親、兄弟、友人などから教わったものであろう(筆者もそうであった)。しかし、現在は、それらの「伝承」が失われつつある。

名の参加が通例である。実習の具体的な進め方は次の通りである。指導者が4人の場合、参加者を三つの班に分け、それぞれの班に一人の指導者がつく。指導者の残りの一人は、全体の見回りと班の間の連絡調整にあたる。参加者は、各自がたも網とバケツをもち、たも網の使い方の

実習を数年間繰り返すうちに蓄積され、先輩諸氏の教えによるところも多い。①実習場所は、流れの緩やかな、中洲などが形成された浅い所を選ぶ。川岸には魚の生息場所となる草の茂みや倒木があり、同時に、見通しの良い場所が好ましい。②川に入る時は、使い古した

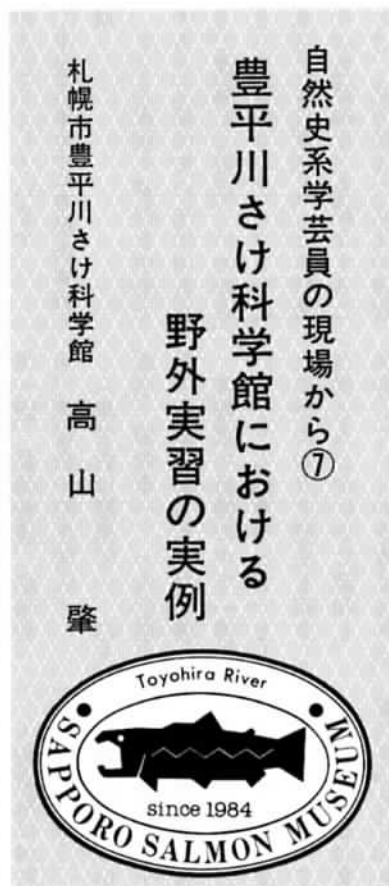
運動靴を履く。素足、サンダル、長靴等は、安全性や動き易さ点で不適切である。参加者は、今後は、増えつつあるリビーター(繰り返し参加者)のためのステップアップメニューの開発と実践をそろそろ考える時期にきているのではないかと感じている。残された課題はまだ多いが、本論は、実習の紹介というところで終わりにしたい。

## 自然史系学芸員の現場から①

### 豊平川さけ科学館における

### 野外実習の実例

札幌市豊平川さけ科学館 高山 肇



参加者は、小学四〜六年生とその保護者という形で公募している。家族で川遊びをする時の知識を保護者にも得てもらふことと、実習中のより確実な安全確保が、その理由である。募集人数は、大人子供合わせて三〇名。指導は、原則としてさけ科学館職員四名が対応し、ボランティア数

解説や安全確保のための注意の後、指導者の姿が見える範囲で、採集活動を行う。数十分の採集の後、各自が採集した魚や水生昆虫を持ち寄り、お互いの採集物を観察する。野外的な河川における実習であるので、安全確保や、実習教材について幾つかの工夫を

④実習中に使用する解説資料は、防水フィルム(ラミネ

度である。⑦野外実習に共通することであるが、万が一の事態に備えて、傷害保険をかけることが望ましい。参加者の反応や実習後の感想文をみる限り、実習の目的は、現在の方法では達成されているのではないかと思う。

新館・園紹介

## 北海道文学の拠点

## 北海道立文学館オープン

北海道立文学館は、北海道出身及びゆかりの作家や作品に関する資料の収集・保存・展示・閲覧・調査研究等の事業を実施し、北海道の風土に根ざした北方文学の振興を図るための生涯学習施設として、平成七年一月に札幌市中島公園内に設置されました。

## ●施設概要

北海道立文学館は、鉄筋コンクリート造、地下一階・地上二階建て、延床面積二、七八〇㎡の規模となっています。



建物内部は、地下一階が常設展示室、特別展示室、談話室、講堂、地上一階はロビー、収蔵庫、閲覧室、地上二階は館長室、会議室、事務室、資料整理室などとなっています。

また、段差のない床、穏やかな階段、スロープ、点字ブロック、身障者対応のエレベーターなど高齢者・身障者にやさしい建物となっております。

●事業概要

一 資料収集事業

(財)北海道文学館が所有する約二十万点に及ぶ資料の寄託を受けるとともに、文学史的観点に立った系統的な資料収集を行い、北海道ゆかりの文学資料の量的な充実とコレクションの質的な水準の向上を図る方針です。

二 展示事業

(財)北海道文学館から提供される資料を中心に、本道出身やゆかりの作家や作品に関する資料を常設展示(年二回展示替)ほか、特定のテーマに基づく特別企画展(年二回春・秋)及び所蔵品



## ●利用案内

ます。

一 午前十時から午後五時まで  
(入場は午後四時三〇分まで)

二 入館料(団体)

一般三五〇円

(二〇〇円)高

大一五〇円(一

〇〇円)、小中一

〇〇円(七〇

円)、(団体は一

〇名以上)

三 休館日

月曜日、国民の祝日、

年末年始(十二月二十九

日から一月三日まで)

四 交通

地下鉄南北線中島公園

又は幌平橋下車徒歩八分

五 お問い合わせ先

札幌市中央区中島公園

一番四号 ☎〇一一五

一一七六五五 FAX

五一一一三二六六

北海道立文学館管理課長

小川 常明

展(年一回・冬)を開催します。

三 教育普及事業

文芸講演会、文芸セミナー、映画上映会の開催等の学習機会の提供や文学活動の支援及び文学者、研究者等からの相談に応じるレファレンス活動、閲覧事業等を行います。

四 調査研究事業

収集資料の調査研究を行うとともに、特別企画展における図録の作成、研究紀要の刊行等を行います。

### 生涯学習フェスティバルまなび ピア'95北海道の開催結果について

まなびピア'95北海道には、本協会としまして、「第34回道博協大会」、「平成七年度学芸職員研修会」等をもつて共賛しましたが、開催事務局から左記のよ様な開催成果のまとめが届きました。

○事業数 二四三事業  
○参加入場者数 七六八、〇  
○五人（目標は四〇万人）  
○北海道大会の特色

大会が成功した理由として、次のような理由があげられています。

○フェスティバル基本構想を決め、理念や方針を明確にした。  
○これまで参加の少なかった大  
学、短大生等に参加を呼びかけ  
た。

○道内の市町村約九割が出展  
した。  
○交通アクセスに配慮して見本市会場と最寄り地下鉄に無料バスを運行した。

○全道的に本事業を盛り上げるため、期間中、道内各地で開催する事業を記念事業と位置

づけた。

○北海道らしさを盛り込んだ事業を独自に企画し、北海道や札幌市、報道関係と共催で開催した。

以上のような自改評価を行っておりですので紹介しました。

### 生涯学習フェスティバル 実行委員会より礼状

本年の九月から十月まで、道内各地で華々しく開催されました第七回全国生涯学習フェスティバルには、本協会としまして、「第三十四回北海道博物館大会」、「平成七年度北海道博物館協会学芸職員研修会」などをもつて共賛しましたがこのたび、実行委員会のほうから、次のような礼状が寄せられました。

本年の九月から十月まで、道内各地で華々しく開催されました第七回全国生涯学習フェスティバルには、本協会としまして、「第三十四回北海道博物館大会」、「平成七年度北海道博物館協会学芸職員研修会」などをもつて共賛しましたがこのたび、実行委員会のほうから、次のような礼状が寄せられました。

「第三十四回北海道博物館大会」、「平成七年度北海道博物館協会学芸職員研修会」などをもつて共賛しましたがこのたび、実行委員会のほうから、次のような礼状が寄せられました。

「第三十四回北海道博物館大会」、「平成七年度北海道博物館協会学芸職員研修会」などをもつて共賛しましたがこのたび、実行委員会のほうから、次のような礼状が寄せられました。

「第三十四回北海道博物館大会」、「平成七年度北海道博物館協会学芸職員研修会」などをもつて共賛しましたがこのたび、実行委員会のほうから、次のような礼状が寄せられました。

「第三十四回北海道博物館大会」、「平成七年度北海道博物館協会学芸職員研修会」などをもつて共賛しましたがこのたび、実行委員会のほうから、次のような礼状が寄せられました。

「第三十四回北海道博物館大会」、「平成七年度北海道博物館協会学芸職員研修会」などをもつて共賛しましたがこのたび、実行委員会のほうから、次のような礼状が寄せられました。

おかげをもちまして、「まなび」でひろく、北のふるさと

をテーマに、札幌市の八十六会場で開催されました、二百四十三の事業に道内外から七十六万八千人もの多くの方々にご参加をいただき、盛会裡に大会の幕を閉じることができました。

これもひとえに、皆様方の協力のご尽力の賜りであり、心から感謝申し上げます。

北海道といたしましては、このフェスティバルを通して、皆様方から寄せられましたご厚情や本フェスティバルの成果を基に、生涯学習の一層の振興のために努力する所存でございます。

皆様方には、今後ともご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます、略儀ながらお礼のご挨拶といたします。

末筆ながら、貴台の益々の健康、ご活動をお祈り申し上げます。

謹言

平成七年十月吉日

第七回全国生涯学習フェスティバル実行委員会

会長 北海道知事 堀 達也

### 事務局通信

経過報告（平成7年7月8日  
〜12日）

境改善センター（他）  
9・28〜29 平成七年度 道博協学芸職員研修会  
（テーマ「博物館と郷土学習」於、苫小牧市博物館）

道博協基本問題検討委員会委員の委嘱  
9・30 道博協ニュース第52号発行

①佐藤一夫氏②福井正繼氏③東谷清次氏  
10・16 斜里町知床博物館館長異動により理事交代  
（金盛 典夫氏↓中川元氏）

④黒崎康雄氏⑤土屋周三氏⑥杉浦重信氏  
11・13 平成七年度 博物館・郷土資料経営専門研修講座名義使用申請（十二月十二日〜十五日）

⑦河野敏昭氏  
11・20 第三回道博協基本問題検討会（於、札幌市）

第一回道博協基本問題検討会（於、女性プラザ）  
11・23〜24 平成八年度 道博協大会開催地（厚岸町）打合せ（野村、小田島）

平成七年度アイヌ民俗文化財専門職員等研修会後援名義申請（10月18日〜20日、かでのる2・7）  
11・30〜12・1 第2回役員会（於、富良野市）

第九回全国文化・学習情報提供機関ネットワーク会議（北海道大会）協賛承認  
12・15 平成七年度 社会教育関係団体連絡会議出席（城戸崎会長、野村）

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環

道立北方博協基本問題検討会（於、札幌市職員研修センター）  
12・22 平成七年度 道東3管内博物館等施設連絡協議会（於、標津町農村環